

『SMILE V2トラックスター』導入で 請求業務の負荷を半減 「物流の2024年問題」の切り札に



運送業向け『SMILE V2トラックスター』で配車管理から売上・請求管理まで効率化

青森県おいらせ町の運送会社である有限会社新月運送は、「物流の2024年問題」に対応するため、受注や配車、輸送に至る業務管理のシステム化を決定。公的補助金を活用し、OSKの運送業向け販売管理システム『SMILE V 2nd Edition トラックスター』を導入した。手書きの伝票とExcelによる売掛管理と請求書作成、という従来の運用から切り替えることで、二重入力の手間を解消するとともに、業務時間は半減。今後は配車管理の活用を図るなど、さらなる効率化に向けて動いている。

導入の狙い

- ・効率的な配車スケジュール管理に向けて業務をシステム化

導入システム

- ・運送業向け販売管理システム『SMILE V 2nd Edition トラックスター』

導入効果

- ・日報集計の迅速化
- ・受注案件による計画的な配車の実現
- ・請求書発行の業務時間が半減

USER PROFILE

有限会社 新月運送

【業種】運送業

【事業内容】建設建築部材および資材機器類(配電盤・モーター)、食品(加工品)飲料、家畜、その他一般貨物の運搬業

【従業員数】16名(2025年5月現在)



2025年5月取材

顧客との信頼関係を重んじる 青森県の運送会社

青森県おいらせ町の有限会社新月運送（以下、新月運送）は1966年に創業した運送会社だ。もともと「新月」という飲食業を営んでいた創業者が、やがて米の配送を請け負うようになり、運送会社を立ち上げたという。同社のロゴマークである「米俵」からも、そのことはうかがえる。

「ここから歩いていける距離の海岸で取れた砂鉄を運ぶ仕事を請け負っていたこともあり。平台のトラックにスコップで砂鉄を積み込み、八戸市の鉄工所などに運んでいたのです。また一時期は、地元の酒造メーカーが造った酒を問屋や小売店などに運ぶ仕事も多く請け負っていました」と説明するのは営業部長の澤口 貢氏である。

現在は主に、建物用の手すりをはじめとする建築部材や土木工事に使用される資材、食品、食肉加工品にされる豚などの家畜を取り扱う。荷台部分が平らな形状の平ボディ、車体の側面が翼のように跳ね上がり貨物を両サイドから積み降ろしできるウイング車、家畜運搬車、クレーンを装備したユニック車など16台の車両で、日々、貨物の運送を行っている。輸送エリアの中心は東北6県だが、関東や中部の建設現場まで運搬する場合もあるという。

「お取引先数は80社ほどに上ります。60年近く事業を続けている中で、長い付き合いをさせていただいているお客様がほとんどです。なので、品質維持はもちろんですが、何よりも信頼関係を大切にしています」と代表取締役の大谷 浩二氏は語る。依頼された貨物を、遅れることなく着実に運ぶ徹底したサービスの姿勢が信頼へとつながっている。

ドライバーの人材不足は運送業界が直面している問題だが、同社も同様にドライバーの人材不足と高齢化は課題となって



建築部材から家畜まで多岐にわたる貨物運送に対応する新月運送は、用途に適した平ボディや家畜運搬車などを取りそろえている

いた。現在勤務する14名のドライバーの年齢層は40代から60代、その中心は50代後半と比較的高い。若い人材の確保が難しいという現状に加えて、2024年4月からは、ドライバーの時間外労働が年間960時間までに制限される、いわゆる「物流の2024年問題」に直面している。

「もともと人手が足りないところに、時間外労働の上限が設けられたこともあり、これまで以上に効率的な配車スケジュールの管理が求められるようになりました」と大谷氏は振り返る。

配車管理を含めた効率化を 目指して『トラックスター』導入

これまでとは管理の仕方を大きく変える必要がある、と考えた大谷氏は、2024年

11月ごろからシステム導入の検討を開始。相談した相手は、以前からパソコンなどの取り引きがあった青森市のシステム開発会社であるキタヤマコンピュータシステム株式会社（以下、キタヤマコンピュータシステム）であった。

そこで提示されたのは、販売管理から会計、給与に至るまでの業務をトータルにシステム化する案であったが、まずは売り上げや請求書発行はもちろん、運送会社にとって重要な配車管理を含めた全体の効率化が見込まれる点に着目し、OSKの運送業向け販売管理システム『SMILE V 2nd Edition トラックスター（以下、SMILE V2 トラックスター）』の導入を決定した。

ドライバーの日報管理から、売上・請求、実績管理まで、運送業特有の業務が行え

代表取締役
大谷 浩二氏

「補助金も、システム導入の大きな決め手になりました。これからは、業務のシステム化を積極的に推進していきます」



営業部長
澤口 貢氏

「システムの導入によってアナログだった配車管理が確実になるならば、それは願ってもないことだと思いました」

る『SMILE V2トラックスター』では、マスターの活用やデータの一元化によって、業務の効率化が期待できる。さらに、受注情報から配車の割り振りができる「受注・配車オプション」を利用することで、効率の良い稼働を期待できる。それは、受注ロスの削減だけでなく、ドライバーの残業抑制にもつながると考えたのだ。

同社では、定期的に貨物を運ぶチャーター便と、単発で請け負うスポット便の2種類の運送サービスを行っている。

「1〜2週間前から予定が決まっているチャーター便は問題ないのですがスポット便は前日に突然頼まれることも多く、当日依頼ということもあり、調整に時間がかかっていました。ここが改善できるのであれば、非常に便利だと思いました」と語るのは、総務経理部の石田 智恵子氏だ。

ほぼ手作業で行っていた配車に係る業務を担う澤口氏は、「総務経理部に翌日分の受注内容を確認し、ドライバーの休憩室の壁に掛けてあるホワイトボードに手書きで配車指示を書き込む、これが毎日の作業でした。ドライバーはまずはホワイトボードを見てから業務に取りかかります。システムによってこの手作業が省力化されるのであればぜひ活用したいと思いました」と当時の思いを語った。

『SMILE V2トラックスター』の導入により、前日までに受けた注文はまず受注処理を行う習慣となった。画面でドライバー、ト



14名のドライバーが、東北地区から関東圏までさまざまな運送を担っている

ラックそれぞれの配車済み予定を見ながら的確に配車ができるので、効率的だ。またドライバーの拘束時間も把握できることから、調整も容易となっている。

公的補助金の活用がシステム導入を後押し

『SMILE V2トラックスター』の導入にあたっては、青森県の『物流の2024年問題対応業務効率化支援事業費補助金』の存在も大谷氏の背中を押したという。

「社会課題でもある『物流の2024年問題』に対処するため、青森県が運送会社に補助金を交付することを知り、これが活用できるなら、と申請しました。システム導入にかかる投資額は小さくないので、採択されて良かったです」(大谷氏)

当該補助金には2月までに実績報告書を提出する、という条件があったため、まずは総務経理部で受注から売り上げ、請求業務まですべてを行っている石田氏が、一人で利用してみることにになり、2025年2月に『SMILE V2トラックスター』は本稼働した。

「このようなシステムを触った経験がなかったので、最初は不安でした。しかし、実際に使ってみると操

作は意外に簡単で、ほとんど迷わずに利用できました。前日までの受注情報を入力しているので、配車状況もパソコンの画面で確認できるようになりました」と石田氏は語る。

わからない点があっても、サポートセンターに連絡すれば、リモート操作を交えながら丁寧に教えてくれるため、とても助かっているという。

Excelからの脱却により二重入力を解消

これまで、新月運送では売り上げや請求書の管理は手書きの伝票とExcelで行っていた。日々の業務を終えたドライバーが総務経理部に提出する手書きの売上伝票と日報を基に、石田氏はExcelのシートに必要な項目を入力して帳簿を作成する。月末になるとその帳簿を基に、Excelで請求書を作成して送信する。それが1か月の手順であった。

「帳簿への入力と、請求書作成のための入力、それらを別々に行っていたので、まさに二重入力でした。手間ですし、入力ミスの可能性もあるので、これらの負荷を減らしたいと思っていました」(石田氏)

『SMILE V2トラックスター』を導入した現在は、運転日報入力を行ったデータが

総務経理部
石田 智恵子氏

「総務経理部に若い社員に来てもらうためにも、システム化を進め、働きやすい環境を整えていきます」

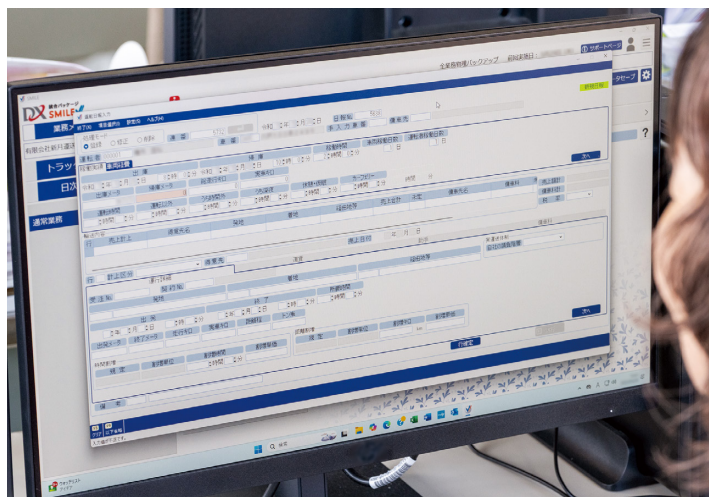


そのまま請求書にも反映されるので、二重入力の手間は完全に解消された。以前は1日がかかった請求書の作成は、半日ほどで処理できるようになったという。作業時間がほぼ半減していることに加え、請求金額のミスが減ったのも、顧客との信頼関係を大切にしている新月運送にとっては大きな効果であろう。

導入してから半年ということもあり、効果を実感している範囲は狭いが、「まだ使いこなせていない機能が多いので、もっと活用していきたいです」と石田氏は抱負を語る。

たとえば、ドライバーが提出する売上傳票や日報はまだ手書きのままだが、各ドライバーが運転日報入力で処理をするようになれば、業務はますます効率化していくだろう。

大谷氏は、「今後は他のシステムとの連携も視野に入れて、うまく活用していきたいと考えています。これからも、OSKさん、キタヤマコンピュータシステムさんに相談しながら、業務のシステム化を積極的に推進します」と展望を語った。



『SMILE V2 トラックスター』の運転日報入力。チャーター便やスポット便といった契約に沿ったデータ入力ができる

お問い合わせ